

絶景が好き!

「かなえ」の健康会編集号では、広報・ヒラタから様々な絶景を紹介していきます。

初回は南紀熊野ジオパークから。紀伊半島の南部で、このエリアでは白浜の〈千畳敷〉、串本の〈橋杭岩〉、〈那智の滝〉なども有名です。

まずは〈フェニックス褶曲〉。

硬い岩盤(地層)が180度近く折り畳まれてる! いったい何がどうなったらこんな地層ができるのか...

地球の神秘を感じずにはおれません。和歌山県すさみ町の海岸にあって、見に行くには同町観光協会に申し込んでガイドの同行が必要です。

続いて〈鳥毛洞窟〉。

和歌山県白浜町にある、海岸の崖が海水で浸食された洞窟なのですが、とってもフシギな風景です。

そして〈古座川の一枚岩〉。

紀伊半島南端の串本から少し北西に入った所にある、その名の通り一塊の巨岩です。

そのほかにも、那智勝浦から白浜までの間は国道42号線を走ると、様々な絶景に出会えます。

フェニックス褶曲



鳥毛洞窟



古座川の一枚岩



そらいろ 保育園の 運動会



健康会〈そらいろ保育園〉は、健康会・庸愛会・健和会・アイワの職員の子どもたちや、地域の子どもたちをお預かりしている企業主導型の保育園です。

11月2日に富田支所のグラウンドで第7回そらいろ保育園運動会を開催しました。「一人一人が主役の運動会」。0歳児から就学前の5歳児まで、みんなが輝いていました。

当日はたくさんの卒園児たちも応援にきてくれて、全園児40名の小さな保育園ですが、大きな家族のような温かい運動会になりました。



健康会 からのご案内



表紙でご紹介した健康会の地域活動は、下記のように開催しています。

つながりサロン (小物づくりの手芸や、体操など)

日時：第1、第3金曜日 10～12時

場所：富田団地UR集会所 中ホール(牧田郵便局向いの建物2階)

つながりバザー

日時：5月、11月の年2回開催 9～12時

場所：富田団地55棟 コミュニティールーム〈ふれあい〉にて

つながり講座

日時：不定期開催(年1～2回)

場所：富田団地UR集会所 大ホール(牧田郵便局向いの建物2階)

また、年3～4回、広報紙「つながり」を発行して各事業所に置くほか、富田団地の各戸に配らせていただいています。

お問い合わせは、**Tel.090-8198-4314(井田)** まで

庸愛会 からのお知らせ

富田町病院 健康講座

「転倒予防 ～転ばないための身体づくり」

お話：富田町病院作業療法士

3月23日(月) 午後2時～(予定)

転倒やつまづきは誰にでも起こることです。体の構造や日々の生活の中での注意点などについてお話しします。



ひとりひとりの思いに寄りそい、チームのちからで叶えます。

かなえ

Vol.
20
新年号

健康会 編集版

社会福祉法人健康会の「つながり活動」

私たち社会福祉法人健康会は、富田団地の中心に牧田町ケアセンターを立ち上げた23年前から、地域に開かれた法人を目指し、地域への発信を行ってまいりました。

地域の皆様の健康づくりと交流の場「つながりサロン」「つながり講座」をはじめ

富田団地自治会主催の夏祭りへの出店、「そらいろ保育園あそぼう会」などを開催しております。

地域の介護・保育拠点となれるよう、これからもたくさんの方々とながっていききたいと思います。

(各催しの開催要綱は、4面をご覧ください)

〔健康会 地域交流委員会〕

富田団地の夏祭りに出店



つながり講座



つながりサロン



つながりバザー



医療法人 庸愛会



社会福祉法人 健康会

牧田町ヘルパーステーション

心と心のつながりを大切に
利用者さんの笑顔を見られる支援を

社会福祉法人健康会は、牧田町ケアセンター（デイサービス）、牧田町ケアプランセンター、牧田町ヘルパーステーション、そらいろ保育園、の4事業所を運営しています。今回は、ヘルパーステーションの紹介として管理者の池之上さんとサービス提供責任者の前久保さん、ケアプランセンターからケアマネジャーの河本さんの3人からお話を聞きました。

訪問介護サービスはいつからされていますか。
現在スタッフは何人いるのですか。

池之上：訪問介護事業としては2000年の介護保険制度の発足と共に始まり、2015年に医療法人庸愛会から社会福祉法人健康会へと移行し、現在の形となっています。



前久保：常勤・非常勤あわせて10人です。訪問介護サービスの調整や担当ヘルパーの調整等を行うサービス提供責任者と、直接ご自宅へ訪問してケアを行うヘルパーが在籍しています。

利用者さんの数は。

前久保：現在、要介護の方が35名、要支援の方が29名、登録されています。

利用者さんの利用頻度は。

前久保：週1回～週2回のご利用の方が多いです。ほぼ毎日利用される方もいらっしゃいます。ひと月ののべ回数は全体で1000回程になります。ヘルパーの1日の訪問件数は、1人平均5件～6件ですね。

利用されているサービス内容は。

前久保：主に身体介護サービスと生活援助が中心です。当事業所では特に身体介護サービスが多くて、利用サービスの8割が身体介護の利用です。内容は時間帯によって異なりますが、朝夕は30分支援の方が多くて、身体保清のケアや服薬介助、デイサービスなどの外出の準備や迎え入れが多いですね。日中の時間帯は、掃除や買物、入浴介助などの1時間支援となっています。

ヘルパーのお仕事で、制度の“縛り”で、
できることできないことなど、いろいろある
と思いますが、どんなことがありますか。

前久保：そうですね。介護保険制度では、換気扇や窓ふきなどの大掃除に

分類される掃除はできませんし、買物についてはお酒や煙草などの嗜好品は購入できないんです。

あと、ヘルパーの医療行為は基本的に認められていません。よく飲み薬や塗り薬といった市販薬を買ってきて欲しい、との依頼があるのですが、副作用のこともあるのでヘルパー代行での購入はしていませんが、医師の処方された薬の受け取りは対応しています。

池之上：生活に密着した支援なので、家の中のちょっとした困りごとの依頼も多くて、季節ものでは扇風機や暖房機の出し入れや夏冬布団の入れ替えなどの依頼もありますね。花の水やりや庭の手入れも制度上できないのですが、「自立支援」としてご利用者さんと一緒にというかたちで行うこともあります。

前久保：基本的に利用者さんのニーズに対して、“どのようにすれば応えられるか”を考えますね。制度ではできない部分では、有償ボランティアなど自費サービスの利用をご提案したり、他の支援に繋ぐなど、利用者さんの困りごとを解決できるように支援しています。「ヘルパーではできません」とお断りするのはなく、「このような支援がありますよ」とお伝えできることで、利用者さんの生活の安心や安全に繋がっています。



牧田町ヘルパーステーション
サービス提供責任者
前久保さん

牧田町ケアプランセンター
ケアマネジャー
河本さん

牧田町ヘルパーステーション
管理者
池之上さん

ケアマネジャーの立場から、いまのお話どうですか。



河本：ケアマネからヘルパー事業所をお願いする場合、できるできないは法令にそって事業所と確認しながら進めます。

さっきの水やりのことなんかも、「介護保険ではできません」で終わらせるのではなくて、事業所と相談して、利用者さんが“どうすれば自立できるか”を考えていきます。ヘルパーさんは頼りになる存在です。

富田町病院の訪問診療や訪問看護との連携は
どうですか。

前久保：在宅支援では医療との連携がとても重要です。姉妹法人である富田町病院の在宅部や訪問看護ステーションとは「報連相」がスムーズにできて、とても連携がとりやすいです。利用者さん、ご家族の安心に繋がっています。

池之上：利用者さんの状態変化のほかに、薬関係の事など、その場で医療的判断が必要な時はケア中に連絡することもあります。連携が取りやすいとヘルパーとしても安心して支援を行うことができます。

河本：利用者さんの体調変化があった時など健康会のヘルパーと庸愛会の訪問看護では連携がとりやすいです。ヘルパーさんは利用者さんの変化の“気づき”がすごいです。「変化の気づき」は、ヘルパーステーションの一番大事なことです。一般的に訪問看護師に比べてヘルパーさんは訪問頻度が高いので、「昨日はこうだった、今日はこうだ」と、様子がわかりやすいです。ケアマネの訪問は月に数回ですから、ケアマネが行った時は起きているけど、普段は日中も寝ていることが多いとか、ヘルパーさんの情報からその方の生活がわかりますね。

ほかにも、週1回の生協の配達注文書を見て「これぐらいの量がいいんじゃないかな?」と助言していたり…。そんなことまで日々見てくれてるんだなあと感じることがたくさんあります。新聞や牛乳とか、なかったモノがある時、認知症の方の場合は言われるままに契約してしまったんじゃないかと考えますけど、日々見てくれてるヘルパーの報告があると安心です。その方の暮らしをしっかりと把握しているからこそ、変化に最初に気づくのはヘルパーさんですね。

普段のお仕事で工夫したりしていることは。

前久保：ヘルパー一人一人のちょっとした気配り心配りですね。例えば、外出のできない利用者さんに、家の周りに咲いている季節の花や風景などを写真に撮って、季節感を伝えたりとか。

在宅生活での看取りに関わることは。

前久保：在宅での看取りを前提に関わらせていただくことはあります。

池之上：ご自宅で看取られるケースは少ないのですが、ご本人の思いやご家族の思いをふまえながら、ご自宅で過ごされる時間を心穏やかに、ご家族との時間を大切に過ごせるように、心に寄り添うケアを一番に関わらせていただいています。

前久保：最近のケースで、医師からは家に帰ったら3日もつかどうか…。と言われていた方が、在宅で半年過ごされた方がおられました。ご自宅に戻るとご主人がいて、一緒にご飯をしっかりと食べておられる。遠方から親戚の方が来るなど、笑顔でおられる姿を見ていると、“ああ、これがお家の力なんだ”って感じました。

池之上：看取りケースでは特にいろんな職種のスタッフとの密な連携が必要です。事業所内でも担当ヘルパーとの定期的な個別検討を行って、ご本人の状態やご自宅での様子を共有しながら、ケアの内容を確認したりしています。

「これから」に向けて

池之上：10年以上前、ここに入る時に“ここは身体介護に強い、困難ケースもとる事業所”って聞いて入りました。自分もそういう思いで続けてきたので、これからも継続していけたらと。そのためには、新しいスタッフにも入ってもらって、次の世代につないでいきたいと思っています。

前久保：これまで「心と心のつながりを大切に」「利用者さんの笑顔を見られる支援を」と掲げてやってきました。普段の生活から看取りまで対応のできる支援者として、在宅支援をつなげていきたいです。

河本：ケアマネとしては、とにかく頼りにしています。何でも気軽に相談できます。これからもお願いします。

聞き手・まとめ かなえ編集委員